

性別役割分業意識の男女差に関する非自覚的レベルにおける研究
 —エスノメソドロジエ的手法を中心に—
 静岡大教育 ○大道明里, 静岡大教育 金田利子

目的：男女平等へ向けてのこれまでの多くの研究により性別役割分業意識への批判的意識において男女差は依然としてあるが、最近はいくらか男性の意識も高まりつつあると言われている。しかし本音の部分でそのことはいえるのであろうか。そこで本研究では人々の本音と思われる”非自覚的意識”における性別役割分業意識に対する男女差について、エスノメソドロジエ的方法により明らかにする。

方法：①性別役割分業意識②妻に望むライフコース（女性は自らの望むライフコース）と③母性の常識テスト（エスノメソドロジエ的文章統覚法）④洗濯の絵（エスノメソドロジエ的絵画統覚法）について質問紙を用いて調査した。調査対象者の内訳（静岡大学の学生・男性100人、女性145人）

結果：①”非自覚的意識”、“自覚的意識”ともに男性よりも女性の方が意識が高く、男女差がみられた。②男性は、“自覚的意識”では性別役割分業意識が浮動的で、妻のライフコースが保守的であり、現実的な内容で保守的傾向が強かった。③女性においては、母性の常識テストが高意識であったが、洗濯の絵では高意識とは言い切れず、“非自覚的意識”の中でギャップがあった。④女性問題へのエスノメソドロジエ的アプローチにより、従来の研究では高意識と考えられた層であっても、“非自覚的”には保守的傾向（母性イデオロギー）が内在していることが明らかになり母性イデオロギーの根深さを示すことができた。⑤今後の女性問題への切り口の一つとして、“非自覚的意識”への着目の重要性を明らかにした。